

シェアリング 第20号

2018.9

～わかちあい～

特集

しあわせな結婚生活の秘訣とは？



晴れの門出。

2人で人生を二人三脚して歩もうと決心した結婚。

50年寄り添った金婚さん、歩き出したばかりの新婚さん、時代は違っても、見つめ合うふたりの瞳の輝きは同じですね。

夫婦は一緒にいると、互いを“空気”のような存在に感じるといいます。それは、相手を思いやり相手を理解し、かけがえのない存在として受け入れているということなのでしょう。

お互いの個性を大切に考え、自分らしく生きられる空気に満ちている人生は素晴らしいですね。

今回は、しあわせな結婚生活のためのヒントを、市内のご夫婦に伺ってみました。

タイトル由来 みんなが“わかちあい”大切を持って、男女が協力しながら、男女共同参画社会をつくっていただけるとの願いが込められています。

金婚さん
新婚さん!

Q 結婚生活で気を付けたいこと、気を付けていることは？

夫:自分ができることをするのではなく、相手ができないことをするようになっています。

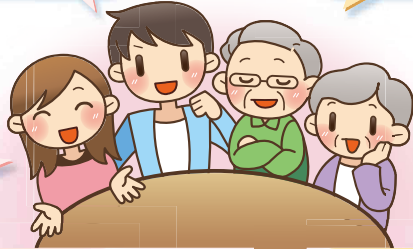
妻:いつも「無理しなくていいよ」という夫の言葉に助けられています。
(M.Tさん・H.Tさん)

ぶつかることもあるが、そこは我慢ですね。お互い主張ばかりするのではいけないと思います。

(善行さん・和枝さん)

夫:不公平感のないよう、家事分担を!

妻:自分でできることは自分で、[ありがとう]の言葉を忘れないようにします。
(T.Sさん・M.Sさん)



今まで築いた信頼感があるので、お互いを信用して束縛し過ぎない関係がよいのだと思います。

(竹夫さん・千枝子さん)

妻:結婚後、産休に入り、これから夫婦一緒に住む予定なので、家事は分担していきたいです。

夫:頼まれたことはもちろんやります!
(A.Nさん・M.Nさん)

自分らしく自然体で。お互いを尊重し、協力しあうことが大切です。

(幹二さん・コトさん)

新婚の皆さんも、家事などできることを分担し、お互い感謝の気持ちをもって助け合えるような関係を築いていけるよう、気を付けているようですね。

今回インタビューにお答えいただいたご夫婦のなかには、家のことも協力して仲良く過ごされたり、共通の趣味を持っていたりしている方もいらっしゃいました。一方で、家事等の役割をどちらかに信頼して任せるなど、時には束縛しない距離感を大切に、お互いのやりたいことを応援することが夫婦円満の秘訣、と感じるご夫婦もいらっしゃいます。

どれが正解、ということはありません。大切なのは、それぞれの生活環境や仕事、育児のスタイルにあわせて、2人が納得して生活できるように心掛けていくことです。

夫婦という生活単位にある男女にとって、年齢にかかわらず共通するのは、互いに相手を尊重し認め合うことの大切さです。長い時間を共に過ごす相手を大切に、しあわせな結婚生活を送ることも、ひとつの“男女共同参画”といえるかもしれませんね。

編集後記

渡邊善正 / 小幡洋子 / 木村諒四 / 飯野文夫 / 萩原敏美

夫婦って、一緒になった時から私の物、俺の物みたいな、子供が生まれればパパ、ママになっているような...何歳になってもファミオ、マサエみたいに、名前で呼び合えるようないつまでも恋人気分であられるような夫婦っていいなあと思います。時には距離をおくのも、またいいのかなあ.....お互いの気持ちを理解して行くことが大切のように感じました。(個人の感想)夫婦の形も様々、生活のスタイルも様々 楽しい人生を送りたいです(´▽`)

夏真っ盛り、暑い日々が続いております。夏と言えば浴衣を連想しますが、着ても、見ても涼しいこの不思議な衣類は日本を代表する夏の風物詩の一つです。平安時代が始まりとの説がありますが、現在に至るまで根強い人気を保っている秘訣はいったい何なのでしょう? 今回の特集も結婚を機に夫婦の秘訣が垣間見られるようご紹介させていただきました。これから時代にあった話題、情報を提供してまいります。

企画・編集 / 下野市男女共同参画情報紙編集委員会
発行 / 下野市 総合政策部 市民協働推進課
〒329-0492 栃木県下野市笹原26番地
TEL:0285-32-8887
FAX:0285-32-8606
E-mail:shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp

金婚夫婦にインタビュー

長年にわたり充実した結婚生活を送るためには、なにか秘訣があるのでしょうか。昨年結婚50年目を迎えた、仲よし夫婦にお話を伺ってみました。

幹二さん

子供3人は県内でそれぞれ別居、夫婦2人だけの生活で神仏に感謝しながら幸せに暮らしています。庭の手入れは2人で行い、お互いの趣味や活動は認めあって、応援しあってやっています。



幹二さんは現役時代、旧国分寺町の町史編さんにかかわり、国分寺町イラストマップを作成されました。今はその延長として下野市のマップ作りに取り組んでいます。書道・絵画・マンドリン等と趣味も多様で、自宅は私設美術館と言っても過言ではなくビックリ!

コトさんは女性防火クラブに参加し、民生委員を9年経験されました。茶道・華道や大正琴も嗜み、家の窓から2人の奏でる音楽が聞こえる暮らしをされています。



小林 幹二さん
コトさん ご夫婦

千枝子さん

夫は子どものときや消防士だったときの経験で、家事は慣れているので、私が忙しい時は夫が家事をします。パークゴルフの練習は夫婦一緒に行っています！親族と大会に出ることもあるんですよ。



星野 竹夫さん
千枝子さん ご夫婦

竹夫さんは家業の農業を続けながら、インターネットで旅行先の情報収集もこなすそうです。千枝子さんは大正琴やパッチワーク、押し花、しもつけ元気はつらつ体操など、友人との交流にも積極的に参加しています。

また、けんかをする暇もないほど忙しかったという現役時代を終えられて、夫婦共通の趣味のパークゴルフを楽しみ、「まさに今が青春です！」とのことでした。

和枝さん

夫が料理する姿を見ていると落ち着かなくて、つい手を出してしまうんです。私が不在にしているときは、お任せしています。

善行さんは「結婚サポーター」として、とちぎ未来クラブで結婚を希望する方の相談や支援のボランティア活動をされています。他にも、趣味として詩吟・剣舞・墨絵等も楽しんでいらしゃいます。

和枝さんは、認知症サポーターや地域の交通安全見守り隊活動など、ボランティア活動に積極的に参加されています。また、友人と地域ふれあいサロンや健康体操に参加したり、自転車でご出掛けしたりするなど、健康的な生活を心掛けているそうです。



佐藤 善行さん
和枝さん ご夫婦



結婚した当初と定年後では、環境や生活状況も変化がありましたか？

コトさん

結婚当初から、思いやり協力し合って生活してきました。私が病気で入院していた時も、私が38歳で看護学校に通い出した時も、夫は私の体を心配しながらも家事や子育てをしてくれました。互いを尊敬していますし、趣味や目標を応援しあって、幸せな毎日です。



竹夫さん

妻はパートの合間に父の面倒を見ていたため、自分の時間が取れなかったと思います。家事や介護に毎日が追われ、あっという間に定年まできてしまいました。定年後は共通の趣味を持てましたし、お互いにできることは自分でやるようにしています。



善行さん

仕事が交代勤務だったため、家事は妻に任せっきり。子育ても参加しにくく、けんかすることもありました。定年後は時間のゆとりができたので、趣味をしながら一緒に過ごす時間も増えました。



新婚さんにもインタビュー

20~30歳代の結婚についても注目してみましょう。今回は、3組の新婚さんご夫婦にお話をうかがいました。

Q これからどんな夫婦になりたいですか？

『相手を思いやることを忘れずに。家庭を築いていくことの大変さもありますが、笑いの絶えない、互いに歩みよれる夫婦になりたいです。』
(M.Tさん・H.Tさんご夫婦)

『“普通の生活”が一番大切だと思います。家事分担するなど、お互い支えあえたら。2人の趣味の野球観戦も、一緒に楽しみたいです。』
(A.Nさん・M.Nさんご夫婦)

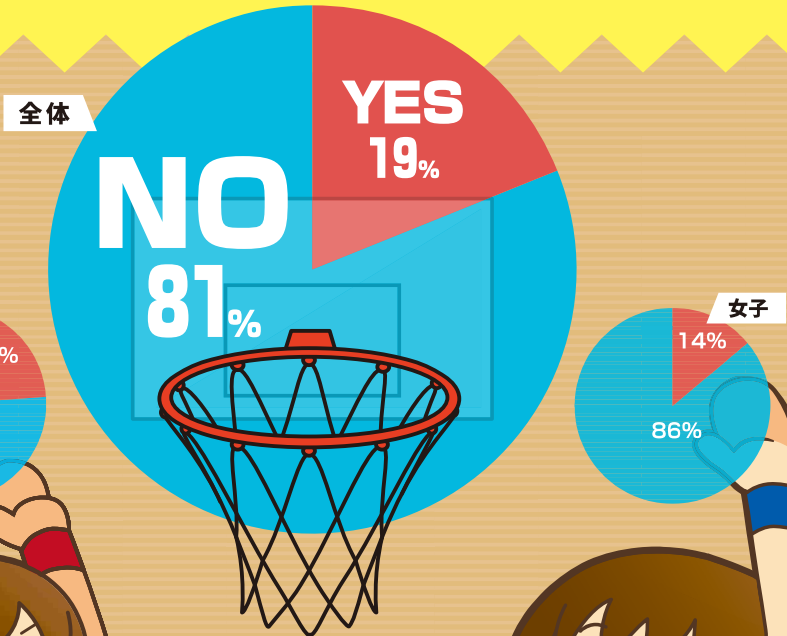


『ずっと仲良く、長く続く夫婦になりたいです。いつもありがとう、これからもよろしくね!』
(T.Sさん・M.Sさんご夫婦)

シェアリング 第21号

2019.3
～わかちあい～

「協力・話し合い」からはじまる ワーク・ライフバランス



中学生の81パーセントが「NO」と答えた質問とはいったい何でしょうか？
(答えは次のページに！)

現代生活は多様化し、仕事や家庭の形態もさまざま。生活するうえで、切っても切れない関係の「仕事と家庭」ですが、これらの両立について、今の中学生はどんな考えを持っているのでしょうか。
今回、市内の中学2年生 477名に、アンケートにご協力いただきました。

仕事と家庭が両立できたら、視野が広がったり人とのつながりも豊かになったりするし、すばらしいと思うんだけど…。

男性も女性も働き続ける家庭が増えてきた分、どうやってバランスをとるかをよく話し合うことが大切なんだろうなあ。

平成 29 年の調査*では、栃木県の共働き世帯は総世帯数の5割を超えています。どちらかが病気で倒れてしまったら、『男だから、女だから』とは言っていられませんか。男性で家事が得意な人もいれば、女性でバリバリ外に働きに出たい人もいます。考え方はそれぞれですが、「男性は子育てが苦手だから」「女性は家事が上手くなければ」というイメージにとらわれて役割を押し付けたり、背負い込んだりしていませんか。
「家事労働」という言葉があるように、本来は家事育児も生活を成り立たせるための大切な「仕事」です。その仕事を押し付け合うのではなく、話し合いのもと分担やシェアをして、『男女ともに納得できる理想の生活というゴールを目指し、パスを繋いでいく』そんなバスケットのような連携プレーが求められているのではないのでしょうか。

*平成 29 年就業構造基本調査結果 (総務省統計局)



編集後記 飯野文夫/萩原敏美/九鬼眞澄/松嶋淑恵/八木橋祐香子

★今号から編集委員会に新しいメンバーが加わりました。

8年前と比べて、こんなにも意識が変わるのかと驚いています。明るい未来を感じさせる中学生のみなさんの意見に勇気づけられました。この結果を読んで何かを感じ取ってもらえたらありがたいなと思います。
下野市は自然災害がなく、とっとも暮らしやすい処ですね。住みはじめて30年経ち、引越して良かったとつくづく感じる毎日です。共感もてる、納得できる情報紙を編集したいと思います。

男は仕事、女は家庭...の時代から大きく変化した現代。働き方の形態、選択肢も多様化しました。幸せの感じ方も人それぞれ。パートナーと話し合い、分かち合う事ができたら素敵ですね!お互いを認め合い、お互いの意志を尊重する気持ちを大切に。

企画・編集
下野市男女共同参画情報紙編集委員会

発行
下野市 総合政策部 市民協働推進課
〒329-0492 栃木県下野市菫原26番地
TEL.0285-32-8887
FAX.0285-32-8606
E-mail:shiminkyoudousuisihin@city.shimotsuke.lg.jp

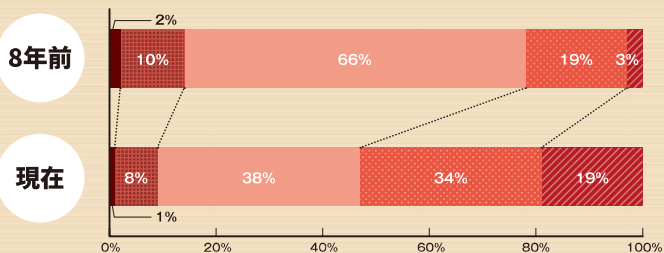


答え『男は仕事、女は家庭』に賛成ですか？

表紙のグラフは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだと思いますか」というアンケートの結果でした。多くの中学生が、「どちらかやれる方をやればよい」「思い込みにとらわれているのでは？」という意見を持っていました。一方で、5人に1人は「男は仕事、女は家庭」と考えているようです。いろいろな仕事・家庭のイメージがありますが、皆さんはどう思いましたか？シェアリングでは、8年前にも同様のアンケート調査を行っています。今の中学生と8年前の中学生では、どのような違いが見られるでしょうか。



Q1. 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように思いますか？



子どもができたらいったん仕事をやめたほうがよい、という回答がぐっと減って、女性も仕事を続けながら育児をするという考えを持っている人が大幅に増えました。

- 女性が仕事を持たないほうがよい
- 結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は専業主婦になったほうがよい
- 子どもができたら、いったん仕事をやめたほうがよい
- 子どもができたら、パート(働く時間が短い仕事)等にかえたほうがよい
- 子どもができて、正社員で仕事を続けるほうがよい

Q2. 女性は、家庭のことをきちんとしてから仕事に出るべきだと思いますか？

女子

- ◆ うちの場合、父のほうが単身赴任なのですが、母がいろいろと家のことをやってくれてとても助かっているから。
- ◆ 子どもが小さいうちは仕事をやらず、大きくなってから働いた方が、生活が安定すると思ったから。なるべく子どもと一緒にいるべき。

YES
55%

NO
45%

女子

- ◆ 「女性だけに任せず男性と一緒に」であれば YES だと思うが、女性のみであればそれは違うと思う。
- ◆ 家庭での仕事は必ずしも全て女性がやらなくてはいけないというわけではない。家族で協力してやるべきだと思う。

男子

- ◆ 将来は自分が仕事で家庭を支えたいので、女性には家庭をメインで生活してほしいから。
- ◆ 「男性が仕事に行く」という社会になっているから、女性が家のことをやらないと少し男性側が大変になっちゃう。



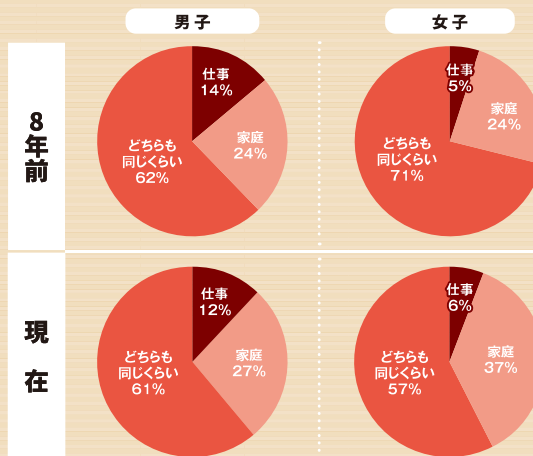
男子

- ◆ 女性も男性も協力することが大切だと思う。
- ◆ 僕は家庭のことをやりたいし、女性のことを男性が決める権利はない。

YES と答えた人は、「男性は家事が苦手」「女性の方が家庭のことが得意なイメージがある」「女性が子育てをしっかりやらないと」等の意見を、男女問わず持っているようです。

NO と答えた男子のなかには、家事に積極的に参加しようとするコメントも見られました。

Q3. あなたは将来、仕事と家庭のどちらを優先したいですか？



仕事と家庭をどちらも同じくらい重視したいという男子の割合は、8年前とあまり変わりません。しかし、男子女子ともに家庭を優先したいという意見が増えました。共働きの親が多い世代として、家庭の大切さと仕事との両立の難しさを感じているのではないのでしょうか。

Q4. 男性と女性が一緒に家事や育児をしやすいするためには、どのようなことが大切でしょうか？

家事や育児をしやすいために大切なこと	男子	女子
仕事の休みが取りやすくなったり、長時間労働がなくなったりすること	44%	46%
男性が、家事や育児にもっと参加すること	29%	22%
家族や周りの人とコミュニケーションをとって、協力すること	19%	22%
家事と仕事両立できるように、便利なサービスを受けられること	8%	10%

男女ともに、残業時間が多い、休暇が取りにくい等の問題を解決することが大切だと考えているようです。たしかに、家にいる時間が短いと家事・育児への参加が難しくなりますよね。近年は「イクメン」という言葉が広まったこともあり、男性の家事・育児への参加にも目が向けられてきています。

